

# 教諭等の育成指標

(養護教諭及び栄養教諭の専門的領域については、次ページに追記あり)

| キャリアステージ<br>資質能力        | 採用までに身に付けておいて欲しいこと<br>*2 | 自立・向上期<br>(1～5年目)  | 探究・発展期<br>(6～15年目)   | 充実・円熟期<br>(16～概ね25年目) (概ね26年目以降)   |  |   |
|-------------------------|--------------------------|--|--|--|--|---|
|                         |                          |  |  | 【前期】 *3  | 【後期】   |   |
| 1 豊かな人間性と職務に対する使命感      | ①人間理解・人権意識               | ・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。  |  |  |  |   |
|                         | ②職務に対する誇りと責任             | ・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。<br>・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。<br>・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。 |  |  |  |   |
|                         | ③ふるさとを愛する心               | ・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。  |  |  |  |   |
| 2 子どもの発達への理解と対応 *1      | ④生徒指導の推進                 | ・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。  | ・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。                                 | ・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。  | ・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。            | ・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通じた連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。 |
|                         | ⑤特別支援教育の推進               | ・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。  | ・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。   | ・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。   | ・特別な配慮や支援の必要な子どもに組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。  | ・校内での支援体制の構築や関係機関及び異職種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。                                  |
|                         |                          | ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。   |  |  |  |   |
| 3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度   | ⑥教科等の指導に関する専門性           | ・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。   | ・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。<br>・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。 | ・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意図的に教育実践に取り組むことができる。<br>・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。 | ・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。<br>・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。<br>・校内研修の中心的な役割を担うことができる。 | ・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。                               |
|                         | ⑦ICTや情報の利活用 *4           | ・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識(情報モラルを含む)や基本的な技能を有している。  | ・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。   | ・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。   | ・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。   | ・校務の情報化の推進に積極的に参画するとともに、後進に適切な助言を与えながら育成することができる。                                     |
|                         | ⑧社会の変化への対応               | ・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑戦し試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。   | ・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。   | ・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。   | ・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。   | ・新たな学びや教育課題に対して、より幅広い視点に立って自身をさらに向上させていくことができる。                                       |
| 4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力 | ⑨学校組織マネジメント              | ・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。   | ・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。   | ・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。   | ・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。   | ・学校教育目標の達成を目指し、学校の運営・指導体制構築に積極的に参画することができる。   |
|                         | ⑩他者との連携・協働               | ・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。   | ・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。  | ・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。  | ・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。  | ・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをすることで、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。                          |
| 5 よりよい社会をつくるための意欲・能力    | ⑪地域資源の活用と地域貢献            | ・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。  | ・子どもと地域社会をつなぐとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。   | ・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。  | ・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。                    |   |
|                         | ⑫合意形成に向けた議論の調整・促進        | ・子ども同士の話し合いの場において、適切に働きかける力を有している。   | ・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。   | ・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。  | ・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。  |   |

\*1 この指標において「子ども」とは幼児、児童、生徒のことである。

\*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

\*3 「充実・円熟期」の【前期】と【後期】の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

\*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

### 養護教諭の専門性に基づく育成指標

| キャリアステージ<br>領域・分野 | 採用までに身に付けて<br>おいて欲しいこと<br>*2                              | 自立・向上期<br>(1～5年目)   | 探究・発展期<br>(6～15年目)  | 充実・円熟期<br>(16～概ね25年目) (概ね26年目以降)  |   |
|-------------------|---|---|---|---|---|
|                   |   |   |   | 【前期】 *3   | 【後期】  |
| 保健管理              | ・学校保健安全法を理解し、保健管理に関する基礎的な知識・技術を習得している。                    | ・救急処置、健康診断、健康観察、疾病管理・予防等の保健管理を通して子どもの健康実態を把握し、適切に対応することができる。        | ・自校の健康課題を的確に把握し、保健管理を学校保健計画に位置づけ、教職員や関係機関と連携して組織的に対応することができる。               | ・最新の知識や技能を習得し、保健管理の結果を効果的に活用し、自校の健康課題解決に向け、校内において指導的な役割を担うことができる。                 | ・最新の知識や技能を生かして保健管理の充実を図り、自校の健康課題解決につなげるとともに、地域においても後進を育成することができる。               |
| 保健教育              | ・専門性を生かした養護教諭の役割を理解し、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得している。             | ・子どもの実態から健康課題を捉え、学級担任等と連携し、養護教諭の専門性を生かした保健教育を実践することができる。            | ・子どもの健康実態や生活実態から自校の健康課題を的確に把握し、その解決に向けた保健教育を計画、実践、評価、改善し、組織的に推進することができる。    | ・自校や地域の健康課題解決に向け、教育活動全体を通じて校内外の関係者と連携を図りながら、発達段階を踏まえた体系的な保健教育を推進することができる。         | ・最新の保健情報や知見等を活用して保健教育の充実を図り、自校の健康課題解決につなげるとともに、地域においても後進を育成することができる。            |
| 健康相談・保健指導         | ・学校保健安全法における健康相談・保健指導の位置づけ及び発達の段階における健康課題とその対応について理解している。 | ・健康相談・保健指導の基本的プロセスを理解し、子どもの心身の健康課題や現代的健康課題との関連を踏まえて、必要な支援を行うことができる。 | ・子どもの心身の健康課題を的確に捉えるとともに、関係者が連携・協働する組織体制をつくり、健康相談・保健指導を通して効果的な支援を展開することができる。 | ・子どもの心身の健康課題に応じ、専門的観点を生かした健康相談・保健指導を行うとともに、学校内外の関係者との連携におけるコーディネーター的役割を果たすことができる。 | ・最新の保健情報や知見、関係者との連携を通して健康相談・保健指導の充実を図り、自校の健康課題解決につなげるとともに、地域においても後進を育成することができる。 |
| 保健室経営             | ・養護教諭の職務と役割、学校保健活動のセンター的機能を果たす保健室の役割を理解している。              | ・学校教育目標を踏まえ、子どもの健康課題の解決に向けた保健室経営計画を作成し、計画に沿って実践することができる。            | ・学校教育目標を踏まえ、子どもの健康課題の解決に向けた保健室経営計画を基に、教職員と連携して組織的な保健室経営を実践することができる。         | ・学校教育目標の実現に向け、保健室経営計画を基に、評価・改善を図りながら、効果的に保健室経営を推進することができる。                        | ・学校経営の観点に立って保健室経営の充実を図り、学校教育目標の達成と健康課題解決につなげるとともに、地域においても後進を育成することができる。         |
| 保健組織活動            | ・保健組織活動の意義と学校・家庭・地域等の協力体制の重要性を理解している。                     | ・家庭・地域等と連携し、子どもの健康課題解決に向けた保健組織活動を推進することができる。                        | ・学校と家庭・地域等の実態を適切に把握し、自校の健康課題解決に向け、計画的・組織的に保健組織活動を推進することができる。                | ・自校の健康課題や地域の健康実態を踏まえて家庭・地域等とネットワーク体制を構築し、保健組織活動の推進におけるコーディネーター的役割を果たすことができる。      | ・地域の特性や家庭の実態を踏まえて健康課題を捉え、校内外の関係者との連携を通して保健組織活動の充実を図るとともに、地域においても後進を育成することができる。  |

※養護教諭には、教諭等の育成指標「3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度 ⑥教科等の指導に関する専門性」に加え、その専門性に基づき、上記の資質能力が求められる。

### 栄養教諭の専門性に基づく育成指標

| キャリアステージ<br>領域・分野 | 採用までに身に付けて<br>おいて欲しいこと<br>*2 | 自立・向上期<br>(1～5年目)                                 | 探究・発展期<br>(6～15年目)   | 充実・円熟期<br>(16～概ね25年目) (概ね26年目以降)   |   |
|-------------------|------------------------------|---|--|--|---|
|                   |                              |   |  | 【前期】 *3  | 【後期】  |
| 食に関する指導           | 給食の時間・教科等における指導              | ・学習指導要領や児童生徒の実態に基づいた指導の必要性を理解し、食育の視点を位置づけた指導ができる。 | ・学習指導要領に基づいた食に関する指導内容を企画・調整し、給食献立計画と関連づけながら実践するとともに、その評価を行うことができる。 | ・学校教育活動全体を視野に入れ、指導体制を整えて効果的に食育推進組織の計画、実践、評価し、改善を図ることができる。                                  | ・地域、近隣の学校などとの連携、調整を図り、市町村の食育計画や推進に関して主体的に関わることができる。   |
|                   | 個別的な相談指導                     | ・児童生徒の個々の栄養相談の重要性を理解している。                         | ・食に関する健康課題や栄養相談について基礎的な知識を有し、個々の状況に応じて適切に対応できる。                    | ・関係機関と連携しながら、個別の教育支援計画に基づき、個別の指導計画の作成に参画し、活用することができる。                                      | ・食に関する健康課題への予防策や対応策について校内や地域で積極的に発信し、関係者の課題への理解や意識の向上に向けた取組を推進することができる。   |
| 学校給食の管理           | 栄養管理                         | ・学校給食の教育的意義を理解し、適切な栄養管理に関する基礎的な知識を有している。          | ・学校給食実施基準に基づくとともに、食品構成を考慮した献立を作成することができる。                          | ・児童生徒の成長や地域の特性を踏まえた栄養管理を行うことができる。<br>・適切な評価や改善を行うことができる。<br>・調理従事者や施設に合わせた献立を作成し、調理指導ができる。 | ・児童生徒の実態に沿った栄養管理の在り方について関係者と共有し、課題解決のための指導助言を行うことができる。<br>・給食管理を食に関する指導と一体化した視点から評価・改善し、学校や地域の特色に応じた献立作成をすることができる。          |
|                   | 衛生管理                         | ・衛生管理の重要性について理解し、適切に実施するための意欲を有している。              | ・学校給食衛生管理基準に基づき、具体的な対応方法を考え、指導することができる。                            | ・学校給食施設の設備や調理従事者の状況を踏まえ、適切に学校給食衛生管理基準を適用することができる。  | ・調理作業や施設の衛生管理について課題を的確に捉え、改善するとともに、学校における衛生管理などを含め、適切な指導・助言ができる。<br>・衛生管理に関する高い専門的知識を生かした実践を踏まえ、他の栄養教諭等に対して指導的役割を果たすことができる。 |

※栄養教諭には、教諭等の育成指標「3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度 ⑥教科等の指導に関する専門性」に加え、その専門性に基づき、上記の資質能力が求められる。